

EJEC の水中可視化技術が日刊建設工業新聞にて紹介されました。

(3) 2020年(令和2年)2月13日(木曜日)

日刊建設工業新聞



水質探査技術は、センサーや分析機器を開発する米YSIのAUVを使用する。AUVは▽前方障害物

で岩場に群がる魚や水質状態を3Dで可視化する。災害対応での活用も可能とい

い、同社は津波の影響で海底に沈んだがれきの位置を把握し航路啓開に貢献する

災害がれき把握 航路啓開に貢献

エイト日技

AUVで水質探査

エイト日本技術開発は、AUV(自律型無人潜水機)「写真」を駆使した水質探査技術を確認し、官民の発注機関に積極提案する。海や川底に向かって音波を発信し、映像を取得する「サイドスキャンソナー」などで岩場に群がる魚や水質状態を3Dで可視化する。災害対応での活用も可能とい

い、同社は津波の影響で海底に沈んだがれきの位置を把握し航路啓開に貢献する

センサ▽サイドスキャンソナー▽多目的水質センサーなどで構成する。サイドスキャンソナーは音波の反響を利用して映像を取得。砂地や岩といった海底の状況を可視化できる。一方の多目的水質センサーはダム底や湖沼の汚濁を検出可能という。水中の可視化に当たっては、事前に設定したコースに基づいてAUVを自走させる。これにより、水底の地形や水質を3Dモデルでモニタリングできる。主に

魚礁の有無を捉える監視技術として、同社では水産庁などが発注する調査業務に使用していた。建設関連業界でICT(情報通信技術)の活用が進む中、同社は水質探査技術の活用範囲を災害対応へと拡大する。災害時は津波によって多くの車両や建築物、溪流船舶が海上に流出し、港湾施設に影響することも予想される。AUVでがれきの位置を割り出すことで、迅速な航路啓開につながる考え。